

Europe Indicators

発表日: 2020年2月21日(金)

欧州経済指標コメント: 2月英国PMI速報

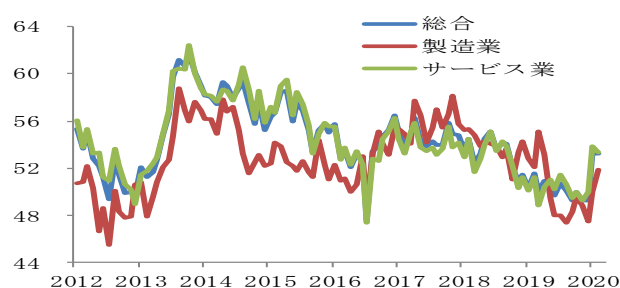
～英EU間のFTA協議睨み～

第一生命経済研究所 調査研究本部 経済調査部

首席エコノミスト 田中 理 (Tel: 03-5221-4527)

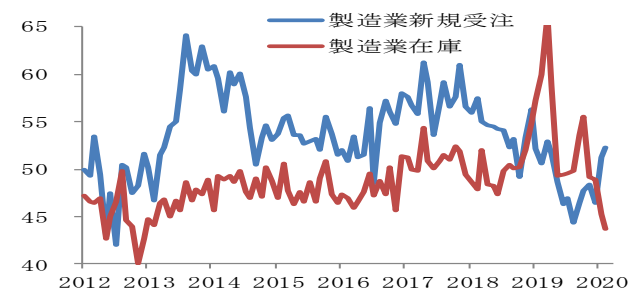
- 2月の英国の総合PMIの速報値は53.3と前月確報から不変。合意あり離脱確定で、昨年12月の49.3から大幅に反発した後は小康状態。近く始まる移行期間中の英EU間の将来関係協議の行方を睨んで、様子見が続いている。内訳は製造業が前月: 50.0→今月: 51.9と一段と改善した一方、サービス業が53.9→53.3と改善モメンタムが鈍化。建設業は来月初に公表される。
- 将来関係協議では、英EU双方が移行期間終了後の関税や割当なしの自由な貿易の継続を望んでおり、米中貿易戦争の脅威後退なども、製造業PMIの改善加速につながった可能性がある。同日発表されたユーロ圏PMI速報でも確認された通り、今のところ新型コロナウイルスの感染拡大による影響は、欧州企業の業況悪化につながっていない。この点は英国の製造業PMIも同様。他方、移行期間終了後のサービス業のEU市場へのアクセスに関してEUは、公平な競争条件の確保（一定程度のEUルールを受け入れ）を要求している。離脱後はEUのルールを受け入れないとする英国政府の立場との溝が大きく、サービス業の業況改善の重石となっている可能性がある。今後、正式な協議が始まると、英EU双方の溝の大きさが意識され、移行期間中のFTA締結を不安視する見方が広がり、先行きの業況慎重化につながる可能性がある。他方、財務相の交代もあり、3月初旬に発表される予算案が拡張的な内容となる可能性があり、この点は業況改善につながる。
- 製造業PMIの構成5項目では、生産、新規受注、入荷遅延（逆数）が大幅に改善した一方で、雇用、中間財在庫が前月対比で悪化した。英国政府は移行期間終了後にポイント制の移民制度の採用を検討しており、低技能労働者を中心に製造業や建設業で人手不足となる可能性があり、雇用判断の下押しに働いた可能性もある。

■英国: PMI 総合



出所: IHS Markit

■英国: 製造業PMIの受注・在庫



出所: IHS Markit

■英国のPMI指数 (季節調整済み)

	2019				2019								2020	
	1Q	2Q	3Q	4Q	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月
英国 総合PMI	50.6	50.5	50.1	49.5	50.9	49.7	50.7	50.2	49.3	50.0	49.3	49.3	53.3	53.3
製造業PMI指数	53.3	50.2	47.9	48.7	49.4	48.0	48.0	47.4	48.3	49.6	48.9	47.5	50.0	51.9
サービス業PMI指数	50.1	50.5	50.5	49.8	51.0	50.2	51.4	50.6	49.5	50.0	49.3	50.0	53.9	53.3
建設業PMI	50.0	47.4	44.5	44.6	48.6	43.1	45.3	45.0	43.3	44.2	45.3	44.4	48.4	—

出所: IHS Markit

本資料は情報提供を目的として作成されたものであり、投資勧誘を目的としたものではありません。作成時点で、第一生命経済研究所調査研究本部経済調査部が信ずるに足ると判断した情報に基づき作成していますが、その正確性、完全性に対する責任は負いません。見直しは予告なく変更されることがあります。また、記載された内容は、第一生命保険ないしはその関連会社の投資方針と常に整合的であるとは限りません。

